

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成25年度)

2. 分野等別状況 (1)国際戦略総合特区(6/7)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値に IIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区 (北海道等)	正	B 3.7	B 3.5 進捗度 ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額等 96%	B 3.8 規制の特例等 ・食品の有用性(機能性)表示制度の見直し等 財政支援等 ・投資促進税制支援 11件 ・国際戦略総合特区利子補給金 20件等 地域独自の取組 ・食品臨床試験事業補助金等	±0.00	<p>・3地区間の連携(※1)による効果は今ひとつわかりにくいですが、<u>地区ごと、事業ごとには一定の進展が見られる</u>。数値目標の達成度も、100%には達していないものの、昨年度より改善されている。</p> <p>・<u>今後は輸出の増大(※2)を期待したい</u>。また、国際戦略総合特区として、<u>企画内容、活動内容に一層の充実が求められる</u>。地域と分野の横断的な6次産業化の具体化に向けての集中的な検討を期待したい。</p> <p>・今後、生産量や知名度といった北海道のアドバンテージを活かすため、輸送能力の向上に努めるべきである。</p> <p>(※1)本特区では、「札幌・江別」(加工食品)、「函館」(水産品)、「帯広・十勝」(農産品)の3地域を特区に指定の上、産学官連携と3地域連携の相乗効果を発揮し得るよう取組みを進めている。</p> <p>(※2)自治体の評価書において、「平成23年度から平成25年度にかけての全国の農産物の輸出額の伸びが454億円のところ、本特区が関与した農産物の輸出額の伸びは4.4億円であり、特区の寄与度は1.0%であった」とされている。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。